

消化器外科 I に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 肝エキノкокクス症に対する外科治療成績の検討

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 寶金 清博

[研究責任者・所属] 神山 俊哉（消化器外科 I 診療教授・准教授）

[研究の目的]

北海道に多発するエキノкокクス症は多包性エキノкокクス症（alveolar echinococcosis、以下 AE）であり、放置すると悪性疾患様の経過をたどります。AE は検診などで偶然発見されるほか、肝腫大や黄疸、発熱、腹痛などの有症状で発見され、これら症例は病巣が巨大であり、肝肺瘻、消化管・胆道穿孔、胆道感染症、門脈圧亢進症を合併し、発見後数年で死亡する例もあります。これら AE に対する根治治療は外科的切除のみです。切除不能例には albendazole 内服が適応となりますが、効果は腫瘍の増殖ならびに転移の抑制に留まり、長期予後は期待できないといわれています。一方、近年肝移植手技の導入など肝切除の進歩に伴い、従来、切除不能としてきた症例も切除できるようになってきましたが、これらの手技が用いられるようになってからの肝切除成績の検討は十分になされていません。本研究では、過去の症例を含め最近の進歩した外科治療成績を検討します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

1984 年 1 月から 2019 年 12 月まで当科で肝エキノкокクス症の肝切除あるいは外科治療を行った方

○利用するカルテ情報

年齢、性別、診断名、前治療の有無・内容、検査結果（血小板数、PT、アルブミン、ICG-R15 値、総ビリルビン、AFP、PIVKA-II）、術前 child-pugh 分類、肝障害度、手術術式、手術時間、出血量、輸血の有無、再発の有無、予後、画像診断結果（CT, MRI, ERCP, 99mTc-GSA シンチ）、病理検査所見

[研究実施期間]

実施許可日～2020 年 3 月 31 日（登録締切日：2019 年 12 月 31 日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院消化器外科 I 担当医師 神山 俊哉

電話 011-706-5927 FAX 011-717-7515